

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372600288		
法人名	社会福祉法人 稲泉会		
事業所名	グループホーム「けーせん」		
所在地	岩手県西磐井郡平泉町平泉字片岡72番地3		
自己評価作成日	平成22年9月1日	評価結果市町村受理日	平成22年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372600288&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号
訪問調査日	平成22年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域活動(70歳以上対象毎月1回7日サロンの会)に参加一員となり地域の皆さんとも馴染み交流が取れている。公民館が会場であるが年間予定で7月7日はグループホーム会場七夕会が組まれており地域の皆さんにも楽しみにしてもらい集って頂いている。○毎年地域青年会の皆さんの草刈奉仕を頂いている。○町役場へ七夕飾り(吹流し)平成19年から始まり玄関に飾ってもらっている。今では利用者も七夕飾りを役場へ運んで行く事、見学に行く事楽しみの行事になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、平泉町の市街地から少し離れ、窓からは近隣の住宅、田畑や山が見える静かな場所であり、特別養護老人ホームと併設し毎週1回法人の看護師が来所して医療面のサポートをしている。職員全員で事業所の理念のほか、入居者との声掛けマニュアル、コミュニケーションの基本姿勢、個人情報適正管理等各種マニュアルを整備して支援を行なっている。公民館で毎月開催される地域サロン会に利用者の参加や、事業所の岩盤浴室を地域に開放したりして地域とのかかわりを大切にしている。事業所内は季節の花が飾られ、利用者は広いホールで職員と一緒にお茶を飲んだり、食事の準備や雑巾縫いをしたりして和やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と共に支える暮らしを目指し地域活動への参加、ホームを地域に開放し交流を行っている。理念については玄関等に掲示し目にする事により意識してもらっている。	職員で作った理念「住み慣れたくらし ほっと安らぐけーせん」をホールやトイレ等、目につきやすい所に掲示し、共有して実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の来荘、野菜、花、果物を頂いたり日常的な交流がある。地域青年会、民生委員さんの草刈り奉仕を頂いたりしている。	地元青年会や民生委員の草刈奉仕や地域の方から野菜等の差し入れを受けたりしているほか、事業所の岩盤浴室を地域の人に開放したりして地域との交流を図っている。	日常的に地域との交流を図っているが、お茶飲み会開催など事業所の力を活かした更なる地域活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流を通して利用者さんへの理解、協力支援を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営、活動、利用者状況の報告を行い参加者からの意見、情報提供を頂きホームの取り組みに活かしている。	事業所の活動や利用者の状況報告等のほか、運営推進会議で他施設の見学をしたり工夫をこらして取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当職員と情報を共有し連携を図っています。町役場に利用者さん作成の七夕飾り吹流しを飾ってもらっている。今年で4回目。また町の敬老会についても協力頂いたりしている。	日頃から町担当者との連絡は密にしており、利用者が作った七夕飾りを保健センターに飾っていただくなど町との連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い職員間意識付けし取り組んでいる。現在対象者はおらず施錠していない。	安全な介護を提供するための10か条、介護マニュアル「身体拘束の理念」等を作成して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して職員間で意識付けしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はいないが制度について勉強会を開き知識を得る様に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族への説明をしっかりと行い質問話し合い理解を得ながら対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時、行事参加時には意見、要望を必ず聞く事としている。利用者さんには生活の中で意見、要望を聞くようにしている。その件については職員ミーティング、会議等で話し合い反映させるようにしている。	運営推進会議や面会時に家族の意見や要望を聴くほか、家族参加の行事を設けて家族が交流する機会をつくり、家族の意見を聴いて反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングの時間、月に1回開催されるチームケア会議等で意見交換している。職員の意見ある時はいつでも対応している。	毎日のミーティング、毎月のチームケア会議、法人の職員会議等で意見交換をしている。出された意見や提案は運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年少しでも職員への処遇改善出来る様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの研修会に参加し知識の習得、また職員の質の向上へと繋がる様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム定例会、研修への参加により交流を深め情報交換、勉強会を行っている。したり交流を持ち、またその会での情報、勉強した内容についてホーム内で勉強報告会を開催している。今年は10月に他グループホーム交換研修を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込み、調査時面談時本人、家族と話し聞き生活状況把握する様努めている。毎日の生活の中でも常に話し合いの時間を取り本人の心身の状態、思いを聞き受け止め対応する様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気にせずゆっくり話し合いが出来る様時間を取り対応している。入所申し込み、調査時また契約時等家族の方が話しやすい雰囲気作り努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況等を把握し早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他事業所のサービスに繋げる等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で外出、買い物、散歩等の機会を設け対話をしたり料理、畑仕事、活動と一緒にしながら一緒に過ごしている中で学ぶ場面を作り工夫して取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い、話しを聞きながら情報を共有し家族と共に本人を支える様支援している事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室継続利用したり知人、友人の訪問、電話等継続して交流が出来る様働きかけている。	行きつけの美容室の利用や知人・友人の訪問、自由な電話等により、馴染みの人や場との関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者心身の状態や気分感情変化する事あるので職員見守りながら日常生活の中楽しく過ごせる時間、場面作りし利用者同士の関係が円滑に過ごせる様働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動された方の面会に行ったり分らない事についても情報提供しながら交流を持っている。家族からの相談には親身に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中会話を通して思いを聞いたりしている。また家族、ケアマネージャーを通して生活状況を聞き把握する様努めている。	ほとんどの利用者は思っていることを話すことができるが、「入居者との声掛けマニュアル」を作成して積極的な声掛けのほか表情や態度からも本人の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査時、契約時に本人、家族、ケアマネージャーを通して話しを聞き情報収集し把握する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し本人の出来る能力を発見しその人の全体像を把握する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に暮らしに対する要望を聞き反映させる様にしている。また職員全員で意見交換、カンファレンスを行っている。	本人や家族の要望や意見を聴くとともに利用者の担当を決めて注意深くみて、毎月のチームケア会議で評価・課題等を職員全員で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	勉強会や研修会を行い、更に職員の資質向上を図り、より良い介護計画の作成、支援を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し身体状況、生活状況、日々の暮らしが分かる様ケース記録を毎日見る。日誌を用意して職員間で情報を共有している。また記録を元に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院、送迎、買い物等必要な支援を柔軟に応じて個別に満足して頂く様努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動に参加し作品作りしたりその会の活動を楽しみ過ごせる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時かかりつけ医の希望を確認している。受診や通院は本人、家族の希望に応じて対応している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診としている。家族同行を基本としているが、対応できない場合は職員が付き添い医師との連絡を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師配置、利用者の情報提供し指示を頂いたり24時間連絡可なので変化がある時はいつでも指示を頂く様にしている。通院介助も一緒に対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との入退院時の情報交換、また家族からの経過報告を受けたりホームから定期的に病院へ出向き状態確認、回復状況を把握しすみやかな退院支援へと結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養と併設であるので入所契約時に事業所で出来る範囲の説明し理解して頂き特養入所申し込みして頂き進めている。状態変化により介護度の区分変更をかけたリホームで車椅子重度になっても対応出来る範囲対応する様にしている。	重度化や終末期医療については勉強会をしているが、ホームでの対応は難しく法人の特別擁護老人ホームと連携して本人、家族の思いに添えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてマニュアルを整備し勉強会により実践力の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成勉強会している。消防署、地域参加で法人全体での避難訓練実施。ホームでは毎月1回職員、利用者で自主的に訓練している。	年1回法人全体で避難訓練を行なっているほか、ホーム単独でも毎月夜間等を想定した避難訓練を行なっている。なお、事業所にはスプリンクラー、火災通報装置が設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で言葉使いの勉強会実施したり、職員間で日常生活の中で気付いた事がある場合はその都度注意を促し改善に努めている。	「個人情報の適正管理」や「介護マニュアル（プライバシー）」を作成して、一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さん個人に合わせた声掛けをし本人の意思の聞き取りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩、ドライブ、畑仕事、食事の手伝い、掃除等一人ひとりその時の状態、思い、体調面に配慮しながら支援出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へ行き希望のカットをしてもらったり買い物に出掛け自分の好みの服を買って来て着たりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、盛り付け、後片付け等利用者さんと一緒に行い調理方法のアドバイスを頂きながら日々行っている。	食事の準備、盛り付け、後片付け等は職員と利用者が一緒に行い、話をしながら和やかに食事をしている。献立表は毎月法人の栄養士に見てもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士さんに食事メニューの確認、アドバイスを頂いている。食事、水分の摂取状況を把握しキザミ、とろみ、ゼリーの必要な方については状態に合わせて食事提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがい等行っている。必要に応じて介助し口腔ケアに努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促している。その事によりオムツ外し改善に役立っている。リハビリパンツ使用の人はなるべく下着パンツ使用へと変更対応している。	声がけで排泄パターンを把握してトイレ誘導を促している。リハビリパンツは出来るだけ布パンツに換える等排泄の自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、おやつ等自然排便促す様食材提供をしている。日常生活の中で日課として毎日体操を入れたり散歩、活動等身体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	仲の良い利用者同士自由に入浴して頂く等楽しい入浴時間提供している。また本人の希望身体状況に合わせて入浴時間提供している。車椅子利用者の方の入浴についても安全確保しながら対応している。	入浴は週3回を基本としているが、本人の希望や身体状況に合わせて行なっている。また、事業所には岩盤浴室があり、近所の人に開放して一緒に楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動、仕事、手伝い等を促し生活リズムが整う様努め体調、希望を考慮し個々自由に休息出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別ケース整理し職員が把握出来る様になっている。服薬確認も行い確実な服薬を行っている。本人の状態変化が見られた場合は記録を取り医療機関との連携を図れる様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で利用者さん個人個人が得意な事、畑仕事、料理、掃除、縫い物出来る事をお願いし発揮出来る場面作りをしている。また感謝の言葉も忘れずコミュニケーションを取りながら進めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩、ドライブ、買い物へ出掛けている。本人の希望と家族の協力により家族との外出、外泊自由に来ている。	散歩、ドライブ、買い物等天候を見ながら、日常的に外出するようにしている。また、花見、新緑、紅葉ドライブやぶどう狩り等季節の外出も行なっている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣い金を預かり管理している。外出、買い物時は個々にお小遣いを持ち自由に必要な物を買える様支援している。自己管理している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じていつでも電話使用出来る様にしている。家族、友人からの手紙等も届いたりそれぞれ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールに季節の花を生けたり共同作品で季節感を味わう事が出来る様な物を飾ったり工夫をしている。また居室からは周辺の田んぼ、山などの風景が見る事出来る季節感を味わえる。	玄関、廊下、ホール等には季節の花や共同作品が飾られ、窓からは近所の家々や田畑、山が見える。ホールにはテーブル席、ソファがあり、小上がりの畳の部屋が接続している。利用者は、各自お茶を飲んだり話をしたり雑巾縫いをしたりして、ゆったり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはテーブル席、ソファー、和室とありそれぞれ過ごしたい場所にて自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳部屋とフローリングの部屋がある。クローゼットの中の衣類整理の工夫は家族と本人に任せて用意してもらい使いやすい様にしてもらっている。家族が持って来た物、飾り物等自由になっている。	各居室には入居者の希望でわらび、しどけ等山菜の名前が付いている。畳の部屋とフローリングの部屋があり、各部屋とも整理整頓され、掃除が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた手すりベットの配置をし安全確保と自立の配慮をしている。		